出雲行日記

内山真龍（藤原）著

出雲日記全

本書奥詞ハ、の自筆にて孔か未詳
多分自筆ならん

出雲行日記

藤原真龍

平宣長序

[illegible]

と[illegible]も[illegible]

[illegible]

宣長

九曜文庫

神代より世の人ものいひ伝へ聞くに
世の国の八百万の神たち天下遠う
くゆきわたりて百姓の大国を八百
万ちよろづは神とまをしてうしときまして大宮
をたてまつりて天つ神四方の命ふるまひをう
けとりつぎまをしてしくに八十万
くにぐにをしたがへ国を天しろしめしと
ぞ

大神神社の由来をいつまをしまをさんと
ぞ思ふ
そこの世の人ものいつくべき神はかずかぎりなき
中に神社の宮ありあれたる人いてまをしてまや
こもりて仕へ奉りつることもかぎりなく
たまものをたまはりたまふ
ものをいはひけつあるものをいやをきす

是川あるこの玉きたる内よりはいろしくもひとしくして
万葉の古ぶりをもよく〜に明らめざりし古代
ことばもよくしらで其外の古門をも世の説々
ことばまださとらずして明らかにかなはぬかきつとゞ
なし此人のこゝろにあつまりて一ふしにあつまりていふ体
こまかにさとしてまさりてことにひとしく[illegible]
ことくみちのむねしさそこらくのかたよりやしこ[illegible]

いよ〜おもぶきを天地にもちて古の書のむねは

天明六年夏六月

伊勢人平宣長

八雲立出雲八重垣妻籠に[illegible]作歌の大綱を[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

國府を巡て昔今の変を見るも白そふまくりし土に見し
志の人々は周知の路小國往の跡を秀徳尊因縁の要なら
大河を渡りて破(フミ)らとて九代あ中りし　伴代給原之出す所
沢は天明六年むつき十余一日のひつしに及て唐沢峠を越て
すり馬にてとこえ作郡の坂しをきり三の橋に宿りに
手沢宿りしは富戸月むつかしくて遠くしかしなと
廿二日　夕ちくを深とかは三行ほとを切しくこちくの

二日より峠山の坂をのほり新庄のこなたけまてに出しけり
ていとうしらく高く椅しまつる
日の気とそひくに嶺之まへらひは晨きてちかよりん
峠にいて大坂といふ峠宿あり　御代の侭しゆかしきう
海をみての二つゝみ又はふらつき城の三人とも事の大
海にて見つる眺く事ゆくのたてる見え渡らに附様
らん　峠を下りに三行の峠宿ゆくけく大田

引佐山越て気賀ハあらんか中一夜のとまりとぞなりける

もいしまし石上山の下道さむされ絆時さそ見ても

みかそさん旅人たまほら

浪よするいくとせされハあるもの湖か見えれ数さき涌

尾張なるこやにつく宮つ方まゝ里川のちらおきし道くら

秋の色さそはあわれ湖橋もおとす京あるくまとすまいそ

秋またく度

廿四日朝し雨降之しらさる御人彼方とさても井に梓本の田

井のとちり田道余かまて退きよ侍るらいし昔人みえたまふる

きれむりしみつまちおつりひろやむしさし時に雨こもる

さも仕来ぬし町に茶なとありて建かしくらりそおかし

めえ年まるそいゝとうまへくゝまふき宿とも良暮

形もなく向でまくらひきく住もして桜の町のやうすとあ秋

きり人と集まく三年帰りつるところ立まく秋をすまう拍清

行くるもとも彼らかくおしのとすくにかゝくらひら
桜人甚ふかくし見まてあふさやかやめぬらん
ものゝふの人今地とふてこにあしてこゝろの衣のなさ
とくまうて彼とちの音のまてあそち物と見えしへ
なとこゝて遠つあまこのみといもちちくて今おふ
ことのとて見も又
嫁しきさ別もんかうとおとさとて思ひのきとも

とふ道てしとおもひしに人ともふらさこゝろつくして
やむ時はいつ天にかゝ人枝て見めまうる人にいへり
直まくつ
春風のふくやとしいすきつ入月まて又近ひ給ひなとして
いつくはさるに猿の俳しまて云やうかたとそし別るゝ
かくて今ニ二月　三月としめて伊勢の御しまへ遷宮
と田露やとてすかき家集と人とも見え人とおもふ二

みてこし去旅

ゑしまふいる豆とやまて掠みて岩かうち両霧

ゝやまこゝて見ゆは跡とこゝ廻り由なと三方朗さ

神風のいでゐえまにすむ人のつくる新葉に命すいは

度相かみ風ふ風ちりおくみけむ

たまとなに見やしても人しもしむ去風のあるまけ

○一まいの紀伊をの掠き橋二人と渡く出て住人とい

いろて見くらあひてしみて旅人なも一んなの終て旅とに

よるけ

廿七の伊勢の宮いとさる見ありて鬼怨路のかりにある塞ゐて

と人のふるもしく枚さらく追つきく人事うとあらり

路汁て金岐の山下ならみ小豆京路達しいそおかく

そらんやいころあまくしも父母のふしけり絶立る藁津生

てもわくゆやしきとゆ憶えて掴らくもしらの枚す谷

かくし六色として寒(やせ)かりけり 紫も心をもとめん

大八ヶ尾張に出る川

君淀國中にて氷るひの厚肥てまゝの心付を

いはやをわけ山を越って雪の中の岩のうへをよしらぬ

桃枕て君につまんでとらも北まうらもは雲まかせ

まし

君は不破にて人は古の関路をすけいにてまする足

ゆんとみるも出にそらをそこそ紅のとあとの

これうち紬に幾あまきいは雲にふりつてを今まさ

きよらかや消よ二ッや

まし

彼方の道中枕今宵むしもあらしきまて独しまけ

二彼ことの心をくるこ冬を作けるその末に作風の来る

あふり林葉とて人をしてもほてこさるの家は花なきを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鏡と名ある絵の下

二月二日近江の那又田中をすくるに鶏に云所にてはやく

暁かうちさわきはやくもあふ海をともからうちき人

人もきこしかるひかりよるともきそうらんあもひて

しまさとをむかへくるにもくゑの峠の山をこしてみれはなうけ

もそくむく鏡山は志賀の大つへとこたへ川けんそくかいさ郡田

の長濱まて蛭ともむかしは蔵戸あるまま侍かやの多

楷も見おはさきとくゆくまま多賀奥石社をまてゆく

まへ近江やむかしみし大多瑞の蚊屋かしいひし頃なるまゝ夕

へにおくいそくとて波定

天保寺は萬代かきしもきもこゝむ子鏡のやしろとも考し

してやうの明かは鏡戸とまよしあつ越て霞

明かはこよ山見て田なるの山の宮のこの面は高きなるかに志賀の

大はなき寂ては木をとちらしるんさ多くあるまま見て

やまのこかはむかしきしうみて三年の夜のまてさかり

中くとみに夕へと見ゆ撫似なすまゝなかくの山寺なか

夏になれハ氷魚あミ手のわざし武威の停なきを
かゝ時のし挽ねせしそのも由れかしけれけらしとゝとにしも一
既り　霊とかすなやひえの山の葉かしくてまこ入
きしのよ水てあめして尻ひき出ら太宮ま不はまもあらなし
錦織（ニシコリ）とる也琵琶湖の今有正元宗村に貴之是すの墓も社
も見る。あのもくしやしみすけ社はて主宗造と古の志賀ノ城
とうとし河しらるゝ名もまらかしてかなりてよし宮内卿
宮郡北白川に出かれ花の辨あひ逢へ河合の社もねもて不見
と云所さやしらと人頭さや里かり流い初すおいかが今をとみ

名に書きさうらも聞えしいかやうけく常盤かなし気なき
おほえして捨客をさとく洞つくら
しまいまてきえ今へ今花あるに頭さこし今かららく霊をまある
るとて梅とれかくもうるやかこそるてまるかるさくて
海まいなる人とおりひやを挽へいるやりと強きらいさ
かよからまん時あまん深いらんと契らるきら挽ハもも
挽のこえを持くてく入しも比礼と
むくほくこふらきけていふとやう之古梅浮枝らしか

名に負ふそとところところくさくさの人

見渡せは西は照る月の中の桂のさしに霞むふくらひく

とまんひむやうなからし　長居の数々をとことへしよし

真に没ふ遠見て天つ神の社のくすみひ比の叶ふも

そらの本花ふ会おられ松の木のま〻と見えるいつしかや

ひろるや霧て見ゆ今もよみひるにてます霞の記田にそら

はのゝこんとりしらく

数々は見たる人にても歩く作る林とあれは扇

言す花の村き流もとる墨絵の御の作けんで葉き

松さらるよ尋ねて人の物がたちいさ見ゐるの行憶えに

猿もらしてよ今をしと見へしてとは今いるくおくちもとこの

人さらし佇搦守

須磨は淋しき眺めり塩やの煙遠流く霞こしもりけるて

よのくむの海とくけしひとみくるやときおくり含みて

もく今うらさらしとや色すんをすまても思ひは松風

いつこはあれ見えてく磨の色にひけん浅路あるふ見渡すそにに

めりまも居りもふさらい美人は尚そひてもらふ久米の君

そのことあけさいたひ侍つる橋戸の編見つる庵室と見へきらく

おもしろ一しやさぬきにむかし時こてらふみのうすゝきしにて大
亀のうき出しを見しこと今猶浦嶋か物かたり
さゝけとられかしこみ酒井よろこひにまとて尺にかゝると
ひとゝ百としつゝの順よいつれもにたれり人々の亀よ
ことしもあやしきことをおもひおもう丹後の海の亀姫の
物語をかへ海にそつゝてゆゑ卯見山の御室に詣てつきんて
古丹後国与謝郡ろく家のとさ夕ゝにしき人の日下部の
首の遠祖嶋子とて水の江に住くちのゆゝにせむ世彼をも
亀を釣らけ亀ろうらしまめ女になりつゝときの海にわたり

りてすゝとあまつ人おほみまふゝうめかけくゝとゝあ玉
すみかとあまくらたひらきそと出ゝ里をもちつきにそこに
三百年あまりあまりをすき今は一人のうらもかしまかす
玉手箱を持てとし死せ出て死とかゝとひらき見まるあ物
ふし遊にゝとくらく
やまへにゝやとりきあけはくそしなふ代りをきゝとゝしま
そとさしすゐ高子し
こゝろあひわたりとひきつゝとは一はここよのはる
乃るきのときうしやし丹後にてつゝ郡て出谷参

[illegible]

[illegible]

[illegible]

て伯耆国うら大神の社迄きさらぎの頃とうらはと
ゝ[illegible]行の者崩れてくい大木を倒し千年の長堅を陰に
さゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
十五日 伯耆しまねの坂ふる[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十六日　月と[illegible]始め雨ふりて[illegible]

二間の堀[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酌の極[illegible]

三保の[illegible]

そらかぜ[illegible]

いさ[illegible]

島根のよまつの浦と朝[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神の[illegible]

[illegible]

すあふぎ[illegible]

破道[illegible]

嵐[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿二日　元[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伎の浦とゝ云ふ此浦いとしろしつかなる
海にあけてくいとも[illegible]と殺生[illegible]西方苦やと[illegible]
小生嗣[illegible]やまけて[illegible]ん神詣[illegible]
西風にものすさまじくあせらる[illegible]
海をへだてゝ方角[illegible]
うらしろに[illegible]
[illegible]くる[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]あき角の河[illegible]の流まうけて奥や拾はん山やひろえん

又[illegible]あきらか

白浪ひろうしらなみとひろうもの[illegible]ぶうひろいし

と云と学[illegible]文雅

芸紙[illegible]の今[illegible]もむと尺[illegible]ところひろいし

もつ[illegible]迄きまに[illegible]ときたりし[illegible]河[illegible]

出[illegible]とる[illegible]　石見国　[illegible]　[illegible]　三河　[illegible]　[illegible]の河とる

古門國　伊坂　[illegible]　[illegible]紙　萩　[illegible]の[illegible]紙

八ノ七枝うしとの糸の出延[illegible]

[illegible]

三月朔日古門の河[illegible]

[illegible]

[illegible]蟹[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四とせ[illegible]こと[illegible]
けつ[illegible]
宗[illegible]
[illegible]の枝にとむすひつけ[illegible]
きの[illegible]
[illegible]
歌[illegible]
さ[illegible]
[illegible]の[illegible]

皇神のよろしきえらく國と治賜ふ振舞の裳たし
て大御身に帯とりもて[illegible]百津石根ふの縣に武士
とを集へて[illegible]
し失はひらけ[illegible]
[illegible]と失作牧のことを[illegible]
大船の舳むき[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しるしてわやうす波をうつ明のもつにそゝ
しに波うてかゝりうるあるいとなりうるを牡丹とおもく
此花黄まて八つらとうんひとうとうふ企救郡小倉
のうちのみちひ芝の浦に四の宿宮にうつる
きおのうちに満と考うるもつたくしの松原いとうと
三月廿八日もつて海うんうく小倉の城おとまり申の時
ゆうけ叶ひあつて漕つる叶のまふきて出つくもさもく
さも豊前の文おもつうこと忘宮社と三つ子も伝右社
文くうと一り北山里の宿村奇まつううと一の文し

同海うる北波のふうて尺まゝ西ふうとと決のまゝひきるす
海まる遠く尺まゝ丹後の山に岩瀬郡うたし三ゝ仰う
此代い芝天ふかうて西海のうとと大神ゝ祭せ
けうとうひまて上代と云ひやまゝ四海やいうる神のうう
屋もいてもうんかうひ海の西ひ海のとうまゝ
ゝまううゝふまたとうふ人海のあひく伊勢ゝ
作田の岬と西海の海の合ゝ所ふ平に地ふふの海
と云た岬の代方ハ海しゝまゝうう国海西ゝ海うう
ていまつうと

絶えぬ流れてくもとい[illegible]と[illegible]坂の[illegible]
[illegible]の[illegible]川[illegible]と[illegible]と[illegible]
[illegible]の[illegible]大井川[illegible]義[illegible]
[illegible]

明てとまりの山の山[illegible]

丈三首　いつも[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

歌の建雄ちあたてるとうを今日とてとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出こゝ中ごろの林一寺に詩若人をいつらにてんぢうに
[illegible]ふるまとに奥戦を荷の若葉と春一番
[illegible]てのこゝろ花とちるすゝき[illegible]
しこさよいつとそ[illegible]字治の大人の英[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

苗代[illegible]肥[illegible]彼本大村の黄[illegible]
三月八日九日之四月十日[illegible]奇[illegible]
[illegible]

十二月　真[illegible]

ひ[illegible]
とひ[illegible]
[illegible]
猿[illegible]
奇[illegible]
遠[illegible]

尾張人徳債のこと

門四人　辛の王雅

いちのとのもくとうのもりにて
天明六年十二月
出雲日記終

賀茂縣主とまつの時の詞

こう賀茂の大人は遠祖神意神の孫鴨武津身命
勢ちの長さ八倍ぬ、初はまゝ、天皇の荒振神等を
ふせけるに、西の国をすべしたまひし時八咫烏と化
山城を導たまひ、神のみ山背に社樂の
なる国の賀茂の大神とゝ帥朝臣大伴遠江守數麻
の歌法社長の郷の賀茂の新宮奇まつりて文永十
一年に成しとき伊勢に坐ひき

乾元年中に又詔ありて代官の任をかへられ世を祈る
りきかるべき宇志代官人の末裔なる人の姓を賜ひ
又人と称する縣主の大人と呼ばれ元禄十年に系譜の
郷に生まれ宇志代國の一十四と表を捧げて宮保
十八年に京にのぼりあきとおもうて荷田の君稲の海と愛
ふ人宮延三年に武蔵国の造みやとにてうりて田舎の
殿にうえはまつりあひの役の所を給りて おもひ
遠つ祖祖波道の切あり中つ世の祖と崇て祀
又迫き宮の祖政を遠に引馬系の所軍に切りて二義

山に流れまする大祢生大神と名をあらし代々今武蔵也
しはまつりて直宮ひの世に記しまして四方の祖
ふまりとなんまつりあひまして記まして公年に
数まつりはさまうりかくて七十餘年の齢にて明和年
十月海のひ又まうりまつる武蔵荏原郡品川
里東海寺のうち十林院の山ふもと華厳ある是真祀
代大人のりつ中に同じく生まれ宮ひの又仕りまつる
りにあると墓まうりまひまつりまつる宮遠つかなつとい
さしの所をかくの

天明元年冬同詠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なりゝめまくに敬ふ事なりて自ら紀氏と越と敬と言ふ事を直
さんとする法を教りて張さまの法ならんを高きを尊ぶまや神
と言じを敬て自ら言じ行ふにて天地始めの時天の
中主神成り次に高ひむすびの神成ります芽にたとし
生まれあるなり此神の霊を次に天の御中に主の神と
あるに依りあり人たちの神成ます主の尊に依
依て天地の常主神成りくるもれに依て主神神
なりなりくるもれは沈むに依てうひちにの神む
ちにの神成りからひに依て角杖神なりなりに依て

にくに依て杖神なりなりに所を依て大なりかなり
への二神成ることを見て依てなる神成生ことの知ることに
依てかしこの神なりまさに男女むすびなりなる
なりこの二柱の神に始て神生まれて出来のおくなる
おを生まることなるなり次に二柱神為とうこを成
今の世人の心なるを学ぶ神の神を世の始めを知ねば
とかにかくなりてひきなりて沈と為ける
けい沈なるなかなる物なり　なるとにりと高と為ける
七なるなる世に和ま物に為なるなりなる世を物なる

水の中ニ住ス魚ニ[illegible]ふしニ毒ニ[illegible]ル神ニ[illegible]
人ニ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世の文と云るやひのもとの三ツのもの氏族家族よりの或
いす加茂と云まく達ふたりの祖ふたりの子孫
ある天御代代を見て神の御末の人を知るし

天明七年二十一月十八日記

1785

遠江人真詠

いせ物語古意序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]男女の相撲[illegible]

[illegible]年の頃の古今集[illegible]

[illegible]

[illegible]

-1131